（別紙様式４－１）　　（県立高等学校用）

玉名高等学校定時制　平成２８年度学校評価表

１　学校教育目標

（ア）「平成２８年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。

（イ）これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき、教職員が一体となって、家庭や地域との連携を深めるとともに、活力ある学校づくりをめざす。

２　本年度の重点目標

本年度教育スローガン「夢実現・可能性への挑戦」

～　見えない学力の充実　～

① 学校行事の充実と生徒の主体的な学校生活への指導と助言

② 生徒の職業観の涵養と就業率向上のための個に応じた情報の提供と学力定着の指導

③ 保護者に対して、進路･保健だよりやＨＰ等を通しての本校教育への理解と協力体制の構築

●評価　Ａ：4.0～3.5　　Ｂ：3.4～3.0　　Ｃ：2.9～2.5　　Ｄ：2.4～1.0

３　自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
項目	小項目					
学校経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	共通の課題解決に向け、職員間の情報の共有を図り、連携を密にする。	職員会議や各委員会、職員連絡会等での情報を周知徹底する。	B	概ね全体会での情報の共有や連携した取り組みができている。職員間での情報伝達を更に密にしていきたい。
		職員研修の充実	人権教育、生徒理解(生徒指導、特別支援)、不祥事防止等で実施する。	総務部で年間計画を調整し各係が企画のうえ、全職員で実施する。	B	年間計画に従って実施され、意義のある研修ができた。次年度も職員の要望にあった研修を検討していく。
	安全な学校づくり	施設の安全確保	年間２回、安全点検表による点検を実施し、危険箇所等の改善に努める。	学期に１回、総務部が企画し、全職員で実施する。	A	６月と１月に全職員で安全点検を実施し、特に改善する箇所はなかった。
		緊急時の安全確保と 緊急事態対応の徹底	危機管理マニュアルの周知徹底と安全意識の向上を図る。	学期に１回、防災・防消火訓練等を総務部が企画し、全職員・生徒で実施する。	B	全職員・生徒で５月に緊急災害時（特に地震）の避難訓練を、１１月に防消火訓練を実施した。生徒の参加率も良く実りある訓練となった。
学力向上	授業の充実	学習内容の充実	年間指導計画を作成する。 基礎学力の定着を図る。 視聴覚・ＩＣＴ機器を活用した授業実践を推進する。	教務部が企画し各教科担当で立案作成して取り組む。	C	各教科で年間指導計画を作成し、見通しを持って授業を展開することができた。視聴覚・ＩＣＴ機器を授業で使用する教科が増え、タブレット端末など新しい機器を積極的に活用する教科もあった。機器の更なる拡充も必要であると思われる。
		研究授業の実施	わかる授業の実践を進め、授業の改善に努める。	公開授業や研究授業を実施し、「かたる会」で研究を深める。	B	「授業かたるウイーク」と称して公開授業週間を設定し、授業の研鑽と生徒理解に努める期間とした。また、２教科で研究授業を実施し、取り組みを紹介した。他の教員の優れた点を取り入れ、授業の改善に努めていきたい。
		授業評価の実施	わかる授業の検証と内容の充実を図る。	授業に関する生徒アンケートを実施し、満足度を８５％以上にする。	B	生徒による授業評価アンケートを実施し、ユニバーサルデザインを念頭に置いた授業の改善に取り組んだ。学校評価アンケートでは授業の充実について86.2%の生徒から肯定的な評価を得ることができた。全ての生徒に対して、わかる授業の実践を目指して、更に研鑽を重ねていきたい。

	個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	授業や「玉定チャレンジ」を通して到達度の把握をする。	教科担当が、学期毎に指導状況を見直し、工夫する。	B	全職員で５月から継続して「玉定チャレンジ」を実施した。生徒の中には、この学習会を楽しみにしている者もいて、休むことなく参加した。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	進路目標設定の取組	玉名公共職業安定所と連携し、情報の入手および提供により、４年次生の１００％の進路決定を目指す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	粘り強く指導し、関係機関との連携がとれ、全員が卒業前に進路先を決定することができた。現職（アルバイト）継続の生徒に関しては、卒業後の支援を続けていく。
			個別面談等を通して就業を促し、就業可能な生徒の就業率を９割以上にする。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	全職員で未就業の生徒の就労を促したが、就労が厳しい生徒が多数入学したこともあり、４月から１２月まで７０％前後の就業率であった。
			個別学習会「玉定チャレンジ」を通して、基礎学力の向上および進学指導を行う。また、各種資格の取得を促し、卒業時に履歴書に書ける資格が１つ以上あるようにする。	進路指導部および教科担当者が企画し、対象生徒の指導に取り組む。	B	５月から継続して実施した「玉定チャレンジ」では、全生徒の約４割が参加し、ワープロなどの商業関係の資格取得者が倍増するなど、高い意欲が結果として現れた。
		キャリア教育の推進	未就業の生徒をなるべく全員インターンシップに参加させる。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	希望者５名のうち４名が実施（１名は就業したため辞退）した。そのうち２名は未就業の生徒であり、１人はハローワークで仕事を探す程成長した。
			イコイバ出前講座や職業理解講座を実施し、多くの生徒に参加させる。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	進路に関するイコイバ出前講座を２回、職業理解講座を１回実施し、約８割の生徒が参加した。
			年間を通して進路ニュースの発行を定期的に行い、保護者に送付する。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	昨年末までに５回の進路ニュースを発行し、成績表と共に保護者へ送付した。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的生活習慣の育成	挨拶、時間の厳守、問題行動の防止を進める。 喫煙等の問題行動、盗難事案の発生件数「０」を目標に取り組む。	全職員の共通理解と共通実践で取り組む。	B	自分から先に挨拶ができる生徒も徐々に増えつつある。 問題行動は今年度０件である。登校時間や中抜けといった時間の厳守に課題が残った。
		交通安全意識の向上	登校指導を実施する。 交通安全教室を実施し、交通事故事案の発生件数「０」を目標に取り組む。	生徒指導部が企画し、全職員で実施する。	B	毎日の登校指導を全職員で実施できた。大きな怪我につながるような事故等はなかったが、接触事故が３件あり、運転マナーや周囲の状況の確認不足など、運転者としての意識に課題が残った。
		自主自律の精神の育成	生徒会執行部を中心とした各種行事の充実と、クラスマッチなど新しい取組を積極的に導入する。	生徒指導部と生徒会が企画し、学校全体で取り組む。	A	今年度、新たに計画したクラスマッチや各種行事は滞りなく実施できたが、生徒会顧問に負担がかかっている。生徒が自主的に活動するような取り組みを全職員で進めなくてはならない。
人権教育の推進	「命を大切にする心を育む」指導の充実	職員研修の推進	年間計画を作成し、全職員で研修に参加することで、資質能力の向上を図る。	人権教育係が立案し、全職員で取り組む。	B	全日制と合同で開催される研修会などで、研修を深めることができた。
		ＨＲ活動、教科指導における取組の推進	ＨＲ活動、各教科における人権教育の取組を策定する。	教頭、人権教育係を中心に全教科全領域で取り組む。	C	各教科内で十分に実施できている。ＨＲは時間の確保が難しく計画の見直しを行いたい。
		家庭への啓発の推進	全日制との合同の人権教育講演会の案内や保護者会等における講話と啓発を進める。	人権教育係が立案し、学校全体で取り組む。	C	保護者会で講話や説明を実施し、啓発活動を行うようにしたい。
		指導内容の工夫と充実	『「命を大切にする心」を育む指導プログラム』に基づいて指導を実施する。	人権教育係と生徒指導部で企画・立案し、学校全体で取り組む。	C	各ＨＲ、教科の協力により、自分だけでなく他者への思いやりの気持ちを高めると同時に、自他の命について深く考え、大切にしようとする心を養う機会となった。

いじめの防止等	いじめ問題への対策	いじめが起きないための 日常的取組の推進	生徒が互いに思いやり、認め合える人間関係を醸成し、いじめを見逃さない体制づくりを推進する。 いじめ事案の発生件数「０」を目標に取り組む。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。 ＨＲ活動でいじめ問題について取り上げる。 いじめ発見のためのアンケート等を実施する。	B	心のアンケートを実施して全校生徒のいじめ問題の実態を把握することができた。 校内についてのいじめは０件であった。今後も、いじめを見逃さない体制を再確認して、全校集会での呼び掛け等、啓発にも努めたい。
		職員の資質能力の向上	いじめ、カウンセリング、生徒理解やネットいじめ等に関する校内研修の推進を図る。	生徒指導部、人権教育係及び保健環境部で連携し、学校全体で取り組む。	B	特別支援教育部と連携し、集団づくりプログラムなど生徒と職員が一緒に取り組む研修や外部講師を招聘した研修を実施し成果を得た。
		家庭への啓発の推進	全日制との合同の人権教育講演会等の案内や保護者会等における講話で啓発を勧める。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。	C	保護者会でいじめのサイン発見シートを配付し説明した。家庭での小さな変化も見逃さないように啓発を行った。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	個々の生徒の正確な実態把握と支援	個別の取組を組織化し、個に応じたフェイスシートを基に支援計画、指導計画等を作成し、活用する。	教頭、特別支援教育コーディネーターが中心となり、気づきメモを活用し困り感を持つ生徒を全職員で支援していく。	B	気づきメモを用意し、計画をたて、生徒への支援を行った。情報は共有できたが、計画の見直しまではできなかった。
保健環境指導	健全な心身の育成	心の悩みを持つ生徒の把握	担任や各部と連携し面談の機会を増やす。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	B	校門指導や補食時、授業中など、様々な場面で面談をしているが、きちんとした面談の時間が確保できていない。
		健康診断後の治療率向上	検診結果を基にした自己の健康の保持増進や治療の促進を行う。	保健環境部が企画し、全職員で取り組む。	C	健康診断後の治療等の報告は前年度より若干名増えている。
		啓発活動の推進	保健便り（環境教育を含む）を年５回発行する。	心のケアの方法やイコイバの内容や感想を盛り込み定期的に発行する。	B	保健だよりはこれまで５回発行できたが、環境教育の内容が不足していた。
		外部講師による講演会の実施	薬物乱用防止教室（年１回）や性教育講演会（年１回）を開催する。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	A	それぞれ１回ずつ開催した。継続して計画していきたい。
	環境美化と環境教育の推進	環境美化の推進	職員清掃日（毎週月曜）、 定期清掃日（毎週木曜）を定める。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で実施する。	B	職員清掃、生徒の清掃については、定着してきており、今後も継続していきたい。生徒数が減ってきているので、掃除箇所変更も検討したい。
		学校版環境ＩＳＯへの取組	具体的推進計画を策定し、周知徹底を図る。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で取り組む。 生徒保健委員会で牛乳パック等の回収を行う。	C	ゴミの分別や移動教室の際の消灯も生徒に定着してきている。 牛乳パックの回収も保健委員が回収することができた。
地域・家庭との連携	情報の発信	学校ＨＰの充実	学校ＨＰの行事ごとの更新と内容の充実	ＨＰ更新係が立案し、原稿作成や校正等に全職員で取り組む。	A	行事等終了後すぐにＨＰの更新を行い、適宜活動の様子を発信できた。また、熊本日日新聞へ活動の情報提供も行った。
	連携の強化に向けた取組	保護者との連携	保護者会（４月、７月）の内容の精選を図り、出欠の返答を１００％回収できるように工夫する。	総務部が企画し、全職員で取り組む。	B	出欠回収率は、４月９６．６％、７月１００％であったが、当日の参加率が前年度と比べて微減であった。
		地域との連携	地域から講師を招き、保護者とともに食育や情報モラル教育等についての研修を実施する。	保健環境部、生徒指導部、情報管理部が連携して計画し、７月開催の保護者会で実施する。	B	７月の保護者会で、学校生活スライドショーを上映し、「食」についての講話と情報モラル教育の説明を実施した。参加された保護者からは高評価を得た。

４　学校関係者評価

生徒の生活状況や学校評価アンケートから、職員の生徒に対する丁寧な指導や関わりが行われ、安定した教育環境が整っていることが窺える。本校が生徒にとって登校したいと思える学校であり、そのことが良好な出席状況等に繋がっているのであろう。

昨年度の学校評価における次年度への課題に、「保護者との連携･連絡の徹底」とあったが、今年度の学校評価アンケートの内容から「学校満足度」（昨年度生徒82.8％→今年度生徒89.6％、昨年度保護者100％→今年度保護者100％）、「親身な相談」（昨年度生徒69.0％→今年度生徒79.3％、昨年度保護者93.3％→今年度保護者100％）など昨年度より飛躍的に評価の高い数値が見られる。その相乗効果が「保護者との連携」（昨年度保護者100％→今年度保護者100％、昨年度職員81.8％→今年度職員90.9％）にも昨年度同様に高い評価の数値が出ているのであろう。今年度の定時制の頑張りが窺える。

５　総合評価

今年度は全体的に欠席等が少なく、問題行動やいじめ事案もなく、落ち着いた学校生活及び授業態度であった。生徒による授業評価アンケートを実施し、職員の授業への工夫・改善を図っている。「わかる授業の徹底」と「個に応じた指導力の向上」を昨年度からの課題としていたが、「玉定チャレンジ」へ参加する生徒が増えたことや公開授業、研究授業等による研修を通して、職員の指導力向上を図るなど課題改善への取組が実施できた。

４年次生の進路指導においては、担任と進路指導部を中心とした全職員で関わり、進学や学卒求人による就職等それぞれの進路に対して、生徒の希望通りに決定することができた。また、就業経験のない１年、２年次生に対しては、インターンシップや職業理解講座等を通して、就業意欲の向上を図ることができた。

日頃の人権教育の視点に立った指導が、周囲を配慮する生徒の言動に表れている。イライラ感や無気力感を持つ生徒は多いが、徐々に自分の感情をコントロールした態度や発言ができるようになり、周囲と調和しようと努めている。また、他者を受け入れる寛容さも育ってきている。特別に支援の必要な生徒に対しては、職員研修等を通して理解を深め、個々に応じた指導が全職員でできている。

生徒会の活動を通して、学校行事等への生徒の関わりを深め、生徒が主体的に参加できるよう行事内容の工夫・改善を行った。今年度は昨年度より行事等への参加率も向上し、行事を楽しんでいる生徒が増えた。この活動の様子をホームページに適宜掲載し、保護者、地域へ多くの情報を発信することができた。

学校評価表の評価については、昨年度より低い数値が多くの項目で現れた。これは生徒が落ち着いたからこそもっとできるはずであるという職員の思いからくる厳しい評価である。５月の緊急時の避難訓練、１１月の防消火訓練では、生徒は例年よりも整然とした対応ができ、消防士の方からも高評価であった。しかし、担当者はもっと真剣な対応ができるはずであると若干厳しい評価をした。**昨年度平均3.5Ａ、今年度平均3.4Ｂ**である。また、人権教育に関する項目では、家庭の悩みを抱えた生徒の問題に対して、組織的に十分対応しているがなかなか解決できていないため、関係職員による評価が下がっている。ＨＲ活動における取組：**昨年度平均3.0Ｂ、今年度平均2.9Ｃ**とし、指導内容の工夫と充実：**昨年度平均3.3Ｂ、今年度平均2.9Ｃ**とした。今年度、職員の組織的な関わりにより、生徒との良好な信頼関係を築くことができた。職員の厳しい評価は、次年度へ向けての意欲の表れであり、今年度の課題を更に次年度へ生かしていきたい。

６　次年度への課題・改善方策

第１に継続的な課題として「わかる授業の徹底」と「個に応じた指導力の向上」である。今年度から実施した授業評価アンケートにおいて特に評価の低かった「ＩＣＴ機器を活用した授業の工夫」、「双方向型の授業の工夫」を次年度への課題として工夫・改善に取り組んでいきたい。例年、後期に実施している公開授業週間を前期にも実施し、早期に課題を明らかにし改善していく。組織的な取組としては、今年度同様に「玉定チャレンジ」による基礎学力の向上のための講座と資格取得のための講座を開講し、参加者増加を図っていく。また、ユニバーサルデザインの視点に立った、授業での配慮が今後更に求められるため、職員研修等を通して個々の生徒に対する職員の共通理解を深め、適切な支援を行っていく。

第２の課題は「保護者との連携･連絡の徹底」である。行事等に関する生徒及び保護者への連絡は、書面だけでなく担任からの電話連絡も行われている。また出欠状況についても、担任が保護者と電話連絡を取っているため、生徒の学校での様子を保護者は理解されている。しかし、生徒と保護者との関係が良好でない場合、生徒の出席状況等の改善に繋がらないことが多い。担任、学校と保護者との連携を更に密にするためには、保護者会等の学校行事へ参加していただくことや学校及び家庭での面談の機会を持つことが大切である。次年度は、そのような機会を増やしていきたい。

第３の課題は安易な進路変更をさせないことである。今年度は、担任、関係職員と保護者との連携がうまくいき、生徒の高い出席率が得られた。特に１年次生においては、授業や行事等に関して積極的に参加し、自分の将来の目標を持ち始めている。また、年度途中で進路変更を考える生徒に対しては、様々な視点での関わりや働きかけを行ったが、結果的には年度末に２名の生徒が進路変更をした。次年度においては、特に新１年次生に注意を払い、情報を職員全員で共有し、今年度同様きめの細かい対応を心がけていきたい。